

瀬戸内海におけるスナメリの呼称（地方名）分布図の制作と配布

牛窓のスナメリを見守る会

代表 小野塚 昌博

岡山県

a . 活動の目的

瀬戸内海に生息する唯一の鯨類で、最も高次の捕食者であるスナメリは、この海における生物多様性の指標となる重要な生物とされる。しかし、沿岸住民の間でその重要性はあまり知られていない。近年では存在の認知度も薄れてきている。強沿岸性の鯨類で、人間活動に近い位置にあるスナメリには地域特有の呼び名が存在する。人々にとって親しみがわきやすい、この呼び名の分布を調べ、分布図ポスターを制作。瀬戸内海全域の公共施設などに配布し、スナメリの認知度向上と重要性の啓発へとつなげていく。調査は現地聞き取りを基本とし、目撃情報も収集。情報が希薄な過去の生息状況を中心に聞き取りを行い、これまでの推移を年表にまとめる。

b . 活動実施項目とその内容

b 1 . Eメールによる取材

インターネット上の情報から調査対象区域内の漁協、マリーナ、ヨットハーバーなどに E メールでアンケート取材を実施。276ヶ所に送信し、不達が32ヶ所、返答が28ヶ所からあった。Eメール取材の結果では、標準和名である「スナメリ」と呼ぶ地域が一番多く18件(64.3%)、続いて「ナメソ」5件(17.9%)、「ナメウオ」「ナメ」「デゴンドウ」「ナミウオ」「ナメット」がそれぞれ1件(3.6%)ずつ確認された。

b 2 . 訪問ポイントの選定と訪問計画策定

Eメールによる取材結果を参考として漁港を中心に訪問ポイントを仮選定(208ヶ所)。仮に作成したアンケートを使いシミュレーションを実施。ヒアリング1件あたりの所要時間を7分程度と決め設問を調整した。続いて訪問ポイント1ヶ所あたりの所要時間を20分と設定し、移動時間を加え1日あたりの訪問ポイント数を12件と設定。これに基づきポイントを132ヶ所に絞り込み、全体の訪問経路を決めた。

b 3 . その他ヒアリング調査準備

調査責任者は、会代表の小野塚昌博、調査員として会の学生組織の中から4名を選抜した。選抜4名は、根本拓磨(岡山理科大学理学部動物学科4年)、田上陽与(同4年)、吉里唯(同1年)、岩田真季(同1年)。調査員は、牛窓で実際に釣り人などに協力してもらい、アンケート内容の見直しも兼ねたヒアリングの実践練習を行った。

調査車両に掲示するマグネットステッカー[右写真]も制作。調査実施日程は調査員の予定や天候を考慮に入れ調整し、その都度、レンタカー、宿泊等の手配を行うこととした。



b 4. ヒアリング調査実施

調査は、6回に分けて延べ11日間で行った。現地では、カーナビゲーションにあらかじめ訪問予定ポイントを入力しておき、ナビゲーションの指示に従う形で経路を採ったが、渋滞などの道路交通状況と現地の状況（人影の有無など）により、その都度、ポイントを修正するなど臨機応変に対応した。

今回の調査では、地方名の分布を明らかにすることが目的であるため、ポイント1件あたりの滞在時間は、20分を限度とし、1ポイントあたりの密度よりも、より多くのポイントを訪問することに注力した。しかしながら、対象となるポイントは、ほとんどが過疎、高齢化の進む漁村であり、人に遭遇すること自体が難しいところなどもあり、調査員4名で歩き回ること、ようやく1件成立するような場所が非常に多かった。時間帯により、複数の人に遭遇することもあったが、そのような場合は出漁や出航の前後であることが多く、こんどは、準備や片付けの繁忙さから回答を得ることが難しかった。また、漁協やハーバーの事務所が確認できた場所では、可能な限り事務員などに話を伺ったが、日常的に海に出ているわけではなく、海のそばで暮らしていても海と関わる割合は非常に希薄で、地方名については情報を持っていない人がほとんどであった（漁師への聞き取りを促される場合や、標準和名である「スナメリ」を答える人が多かった）。このことは、事前に行ったEメールによるアンケートの返信率が低かったことの一因であるとも推測される。また、施設はあるが既に廃墟となってしまうところや、現役で出漁する漁師の数が一桁に減ってしまったとされるような漁港も複数確認できた。

このような状況の中、訪問ポイントの総数は131となり、そのうち、1件以上の有効なデータを収集できたポイントが118。有効なヒアリング件数（呼称について回答の得られたもの）は333で、訪問総数における1ポイントあたりのヒアリング件数の平均は、2.5であった。訪問ポイントの名称については、ヒアリング実施箇所の最寄りの港湾施設名（漁港名など）を使用することで統一した（漁港やヨットハーバーなどが複合的に存在する場合は漁港名を使用）。呼び名の聞き取りでは、発音により混同しやすいものもあったため、曖昧なものや聞き取りにくいものに関しては、できる限り筆記での確認を行った。



調査中 スナメリの写真を用意して持ち歩いた

ヒアリング調査実施日程と経路

■ 第1回（2012年9月10日～11日）

参加調査員：小野塚昌博、根本拓磨、吉里唯、岩田真季

8：00 岡山理科大前集合出発

11:30 調査開始 大阪市漁港～大阪市北港ヨットハーバー～堺市漁港～岸和田市漁港～田尻漁港～岡田浦漁港～小島漁港～加太漁港
18:10 調査終了 フェリーにて和歌山港より徳島港へ 徳島市内泊
6:00 出発
6:10 調査開始 徳島市漁港～里浦漁港～新鳴門漁港～鳴門漁港～福良漁港～南淡漁港～由良町漁港～洲本漁港～炬口漁港～岩屋漁港～育波浦漁港～一宮漁港～五色町漁港～湊漁港
18:30 調査終了
22:10 岡山理科大前解散

■ 第2回 (2012年10月15日)

参加調査員：小野塚昌博、根本拓磨、田上陽与、吉里唯

6:00 岡山理科大前集合出発
7:20 調査開始 坂出市漁港～下笠居漁港～香西漁港～庵治漁港～さぬき市漁港～津田漁港～東讃漁港～相生漁港～北灘漁港～北泊漁港
16:15 調査終了
19:15 岡山理科大前解散

■ 第3回 (2012年10月20日～21日)

参加調査員：小野塚昌博、根本拓磨、吉里唯、岩田真季

5:00 岡山理科大前集合出発
6:15 調査開始 多度津漁港～詫間漁港～西詫間漁協～三崎漁港～仁尾漁港～西かがわ漁港①～西かがわ漁港②～川之江漁港～寒川漁港～土居町漁港～多喜浜漁港～新居浜漁港～ひうち漁港～河原津漁港～桜井漁港～今治漁港
18:25 調査終了 今治市内泊
6:00 出発 小部漁協～波方漁港～渦浦漁港～宮窪漁港～伯方漁港～上浦漁港～宮浦フェリーターミナル～御島漁協～宗方港フェリーターミナル～瀬戸田フェリーターミナル～因島市漁港～向島町漁港～笠岡市漁港～寄島町漁港
19:10 調査終了
20:20 岡山理科大前解散

■ 第4回 (2012年10月31日)

参加調査員：小野塚昌博、根本拓磨、田上陽与、吉里唯

6:00 岡山理科大前集合出発
8:15 調査開始 駒ヶ林漁港～垂水漁港～明石浦漁港～江井ヶ島漁港～別府町漁港～伊保漁港～大塩漁港～白浜漁港～網干漁港～室津漁港～相生漁港～赤穂漁港～日生漁港
18:50 調査終了
20:15 岡山理科大前解散

■ 第5回（2012年11月10日）

参加調査員：小野塚昌博、根本拓磨、吉里唯、岩田真季

- 6：00 岡山理科大前集合出発
- 8：15 調査開始 池田漁港～橘漁港～福田漁港～大部漁港～四海漁港～たまの漁協
日比漁港～下津井漁港～軈の浦漁港
- 17：30 調査終了
- 19：05 岡山理科大前解散

■ 第6回（2012年12月26日～29日）

参加調査員：小野塚昌博、根本拓磨、吉里唯、岩田真季

- 5：00 岡山理科大前集合出発
- 6：20 調査開始 尾道漁港～三原漁港～芸南漁港～吉名漁港～安浦漁港～下蒲刈町
漁港～吉浦漁港～草津漁港～地御前漁港～大野漁港～和木漁港～通津漁港～
大島漁港～久賀漁港～森野漁港～田布施漁港～光漁港
- 16：20 調査終了 光市内泊
- 6：00 出発
- 6：20 調査開始 下松漁港～戸田漁港～中浦漁港～阿知須漁港～宇部岬漁港～鷹泊
漁港～埴生漁港～才川漁港～下関南風泊漁港～柄勺田港～西八田漁港～中津
漁港～宇佐漁港
- 17：00 調査終了 豊後高田市内宿泊
- 6：00 出発
- 6：30 調査開始 真玉漁港～国見漁港～くにさき漁港～武蔵町漁港～日出漁港～神
崎漁港
- 12：00 フェリーにて佐賀関港より三崎港へ（国道九誌フェリー）
- 13：20 調査開始 三崎漁港～島津漁港～伊方町漁港～長浜町漁港～上灘漁港
- 16：50 調査終了 松山市内泊
- 6：00 出発
- 6：30 調査開始 今出漁港～高浜町漁港～北条市漁港～菊間町漁港～横島漁港～胸
上漁港～牛窓漁港～虫明漁港
- 16：00 調査終了
- 16：45 岡山理科大前解散

b 5. 調査の集計

ヒアリング調査1回毎に別日程で参加調査員全員による集計作業を実施した。全データの集計作業は、2013年2月～5月にかけて行った。

b 6. ポスターの制作と配布

発送配布先については、瀬戸内海沿岸域の小中学校を中心に選定した。「沿岸域」の定義によっては対象が相当な数になるため、海岸線から2km程度にある学校を目安に絞り込んで

ピックアップした。また、公民館などの公共施設に関しては、現地調査中に調査員がポスター掲示に有用と判断し記録した施設、機関を対象とした。ほかにアンケート回答者でポスターの送付を希望した個人、団体を対象として発送した。発送先の選定作業は、全データの集計作業と並行して行った。制作したポスターには呼び名を示したマップと呼称一覧に加え、スナメリの基礎的な情報と日本における分布状況、瀬戸内海での生息数の推移も記載した。閲覧対象を考慮し、小学3年以上を対象にルビ振りも施した。

2013年5月22日にA3版500部、B3版400部が納品され、その後封かん作業を行い、6月20日に普通郵便にて発送完了。発送数は423通であった。

ポスターの実物は、活動の成果、制作物として別に添付する。

c. ヒアリング調査集計結果

c 1. ヒアリング項目について

今回の調査で、実際に尋ねた項目は、次の通り。

1. 【呼び名について】このあたりでスナメリは、何と呼ばれていますか？（複数回答可）
2. 【最近の目撃について】最近ご覧になりましたか？ご覧になった場合それはいつ頃ですか？
3. 【目撃場所について】よく見かけるところなどはありますか？
4. 【季節変動について】季節によって見たり見なかったりすると思いますか？
5. 【潮や時間による変動について】時間や潮、天候によって出たり出なかったりすると思いますか？
6. 【目撃数の増減】昔に比べて見るのが減ったと感じますか？
7. 【最盛期について】これまでに一番よく見かけたのはいつ頃でしょう？
8. 【年齢】おいくつですか？
9. 【職業】ご職業は？

c 2. 呼び名の概要

今回の調査では、呼び名が34種類確認できた。確認された呼び名の一覧とその呼称が使用されているポイント数、および使用している人数を一覧表にして[表1]に示す。呼称別の回答者の平均年齢と職業も[表1]で一覧とした。呼び名については、標準和名である「スナメリ」を使っている場所が一番多く確認された。標準和名以外の地方名では「ナメソ」と呼ぶ場所が一番多く、続いて「ナメウオ」「ナメ」となっている。一方、人数では、「ナメソ」と呼んだ人が一番多く、続いて「スナメリ」「ナメウオ」となっている。

[表1] 呼称一覧

呼称	ポイント数		人数		平均年齢	職業別内訳									
						漁師		海運業		その他(釣り人)		その他		不明	
スナメリ	42	24.9%	66	19.4%	43.0	17	11.9%	1	33.3%	11	64.7%	10	34.5%	25	17.7%
ナメソ	28	16.6%	70	20.5%	59.6	35	24.5%	2	66.7%	4	23.5%	8	27.6%	21	14.9%
ナメウオ	16	9.5%	52	15.2%	64.8	21	14.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.4%	28	19.9%
ナメ	13	7.7%	31	9.1%	68.1	10	7.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.4%	19	13.5%
デゴンドウ	10	5.9%	12	3.5%	65.4	5	3.5%	0	0.0%	0	0.0%	2	6.9%	5	3.5%
デゴン	7	4.1%	11	3.2%	57.8	10	7.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.4%	0	0.0%
ナミウオ	5	3.0%	19	5.6%	61.6	7	4.9%	0	0.0%	1	5.9%	0	0.0%	10	7.1%
ナベ	5	3.0%	9	2.6%	68.4	6	4.2%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	2.1%
ナメクジラ	5	3.0%	5	1.5%	62.7	3	2.1%	0	0.0%	1	5.9%	0	0.0%	0	0.0%
ナメット	4	2.4%	11	3.2%	62.0	5	3.5%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	3.5%
ウミボウズ	3	1.8%	7	2.1%	46.5	5	3.5%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.4%	1	0.7%
ナメス	3	1.8%	3	0.9%	47.0	2	1.4%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.7%
スナメリクジラ	3	1.8%	3	0.9%	57.5	1	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.4%	1	0.7%
ナメクジ	2	1.2%	3	0.9%	55.5	1	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.4%
ナメノウオ	2	1.2%	2	0.6%	82.0	1	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.7%
ナベツン	2	1.2%	2	0.6%	65.5	1	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.7%
ゴソ	2	1.2%	2	0.6%	53.5	1	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.7%
デゴンス	1	0.6%	6	1.8%	55.0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	4.3%
ナメスサン	1	0.6%	5	1.5%	62.0	1	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	2.8%
ナメラ	1	0.6%	4	1.2%	52.0	1	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	3	2.1%
ゴドン	1	0.6%	3	0.9%	40.0	1	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	2	1.4%
ナメタ	1	0.6%	2	0.6%	59.5	1	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.4%	0	0.0%
ナベサン	1	0.6%	2	0.6%	64.0	1	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.7%
フカ	1	0.6%	1	0.3%	0.0	1	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ナメノイオ	1	0.6%	1	0.3%	63.0	1	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ナメトコ	1	0.6%	1	0.3%	37.0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.4%	0	0.0%
ナメツン	1	0.6%	1	0.3%	69.0	1	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ナメダチ	1	0.6%	1	0.3%	0.0	1	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ナベブカ	1	0.6%	1	0.3%	60.0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.7%
ナベウオ	1	0.6%	1	0.3%	74.0	1	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
デンガイ	1	0.6%	1	0.3%	55.0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.4%	0	0.0%
ゼゴン	1	0.6%	1	0.3%	76.0	1	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ジョゴンドウ	1	0.6%	1	0.3%	0.0	1	0.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
ザボン	1	0.6%	1	0.3%	68.0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	3.4%	0	0.0%
合計	169ヶ所		341人		59.8	143人		3人		17人		29人		141人	

「スナメリ」を標準和名、それ以外をすべて地方名とした場合の結果を[表2]に示す。ポイント数では、標準和名42に対し地方名が127となり、瀬戸内海沿岸の多くの場所で地方名が使われていることが確認できる。また、回答者の平均年齢は、標準和名回答者の43歳に対して地方名回答者は60.4歳となり、若年層ほど標準和名を使用しているという結果が確認できた。職業別の集計を見てみると、標準和名回答者は、漁師や海運業者、釣り人や沿岸住民まで、海との関わり密度にかかわらず、比較的均一に使われていることが確認された。一方、地方名回答者については、圧倒的に漁師が多く、地方名の発生の元は他の水産物の呼称同様、漁師言葉である可能性が高い。なお、職業別の集計について

は、漁師、海運業者以外の人をその他とし、さらにその中で当日釣りに来ていた人を釣り人として区分けした。

漁の対象としての記録のないスナメリであるが、漁網を損傷させる、魚を散らす、などの理由から漁師には嫌われ者とされることも少なくなく、そういった意味から各地で呼称が与えられていったのかもしれない。スナメリの利用に関しては、広島県竹原市忠海町で行われていた「ゼゴンドウ網代漁」が記録に残されている。ほかに、今回の調査中、詳細は不明であったがスナメリから油を採取して利用していたという話を聞くことがあった。しかしながら、食用利用の話は、今回の調査を含めこれまでも一切聞いたことがなく、牛窓の古老の漁師によれば「戦後の食糧難の時代でもあれだけは食わなかった」と言うほど食用には適さないようだ。

人間の生活圏のすぐそばにいながらも利用価値がほとんどなかったために、さほど注目されることなく生息してきたスナメリに、複数の地方名が存在しているということは、過去に無視できないほどの大量の個体が生息していたということの現れかもしれない。

漁師に限らず、昭和の初めからから10年代生まれの沿岸住民の人々に話を聞くと、ほぼすべての人が、たくさんのスナメリが船に併走し付いてきたことを昔話として口にする。現在の瀬戸内海からは想像しがたい光景であるが、多数残された地方名からも過去の生息の実態が垣間見えてくるのではないだろうか。

[表2]

呼称	ポイント数		人数		平均年齢	職業									
						漁師		海運業		その他(釣り人)		その他		不明	
標準和名	42	24.9%	66	19.4%	43.0	17	11.9%	1	33.3%	11	64.7%	10	34.5%	25	17.7%
地方名	127	75.1%	275	80.6%	60.4	126	46.8%	2	0.7%	6	2.2%	19	7.1%	116	43.1%

c 3. 呼称毎の地域分布

大阪湾、播磨灘を含む東部の海域では、「ナメウオ」「ナミウオ」など「ナメ」系統の呼称に「ウオ」を合わせた呼び名が比較的多く見受けられた。備讃瀬戸から塩飽諸島、笠岡諸島と西へ向かい燧灘へと続く中央部の海域では、地方名として今回一番多く記録された「ナメソ」が多く見受けられる。芸予諸島を境に斎灘全域、および周防灘の本州側では「デゴンドウ」「デゴン」などゴンドウクジラに由来すると推測される呼称が多く見受けられ、伊予灘、および周防灘の九州側では、「ナメ」系統の呼称が多く見受けられた。

変わった呼び名では、「ゴソ」「ザボン」などが挙げられる。「ザボン」は、海水を堀に引き込んでいる今治城（愛媛県今治市）において、堀に現れるスナメリに付けられた呼称で、このお堀の周りのごく狭い地域限定の呼称と推察される。

大別すると「ナメ」系統と「ゴンドウ」系統に分けられ、局所において独立した呼称が存在すると考えられるが、断定し系統図を完成させるには、さらなる調査と異なる視点からの調査も必要とされる。

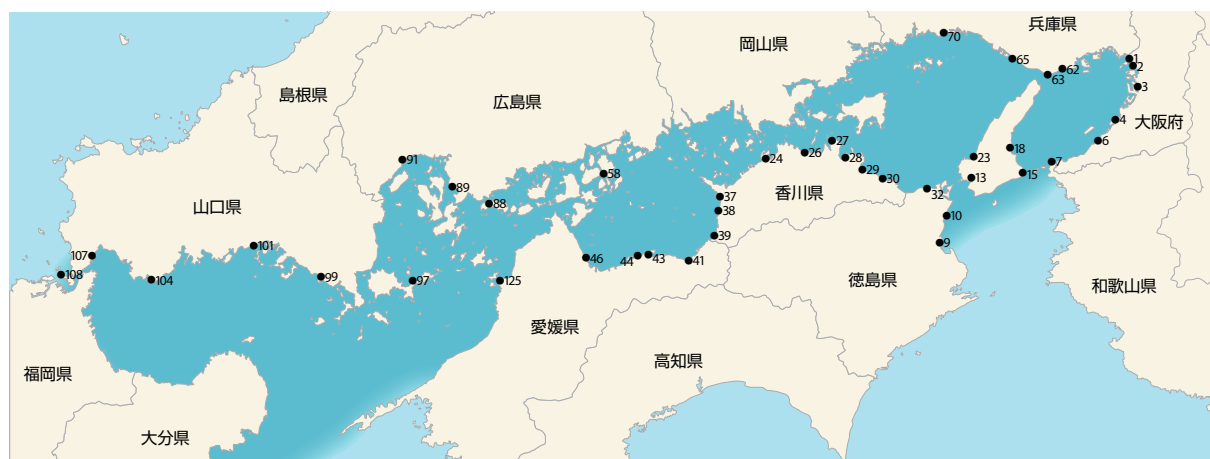
以降に、呼称の分布概要を示した地図と標準和名である「スナメリ」、および「ナメ」系の代表として「ナメソ」、「ゴンドウ」系の代表として「デゴンドウ」を抜粋し、呼称毎の地域分布を一覧表と地図で示す。

呼称の分布概要



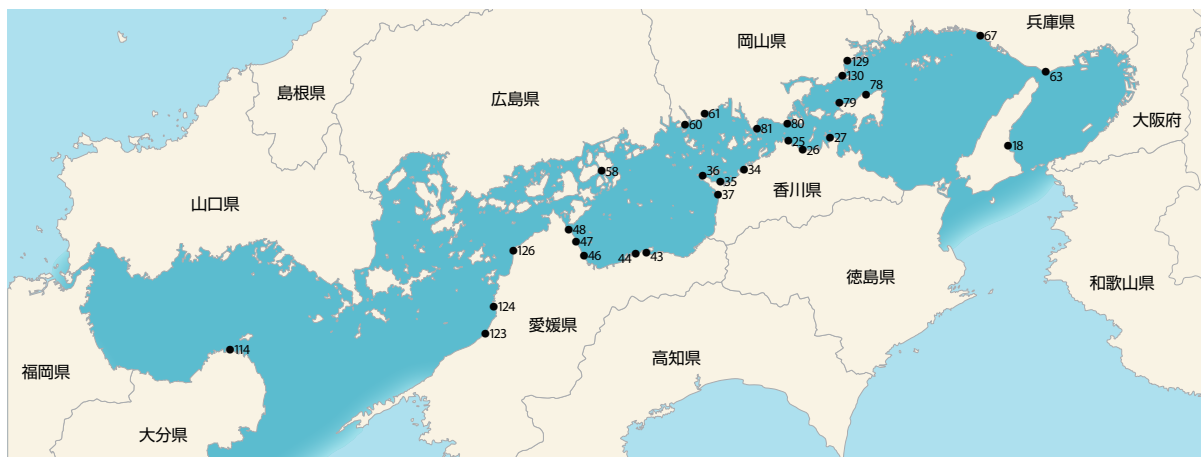
スナメリと呼ぶ地域

番号	ポイント名	番号	ポイント名	番号	ポイント名	番号	ポイント名
1	大阪市漁港	23	湊漁港	41	寒川漁港	89	吉浦漁港
2	大阪市北港ヨットハーバー	24	坂出市漁港	43	多喜浜漁港	91	地御前漁港
3	堺市漁港	26	香西漁港	44	新居浜漁港	97	森野漁港
4	岸和田市漁港	27	庵治漁港	46	河原津漁港	99	光漁港
6	岡田浦漁港	28	さぬき市漁港	47	桜井漁港	101	戸田漁港
7	小島漁港	29	津田漁港	58	因島市漁港	104	宇部岬漁港
9	徳島市漁港	30	東讃漁港	62	駒ヶ林漁港	107	才川漁港
10	里浦漁港	32	北灘漁港	63	垂水漁港	108	下関南風泊漁港
13	福良漁港	37	仁尾漁港	65	江井ヶ島漁港	125	高浜町漁港
15	シゲマル（水産会社）	38	西かがわ漁港①	70	網干漁港		
18	炬口漁港	39	西かがわ漁港②	88	下蒲刈町漁港		



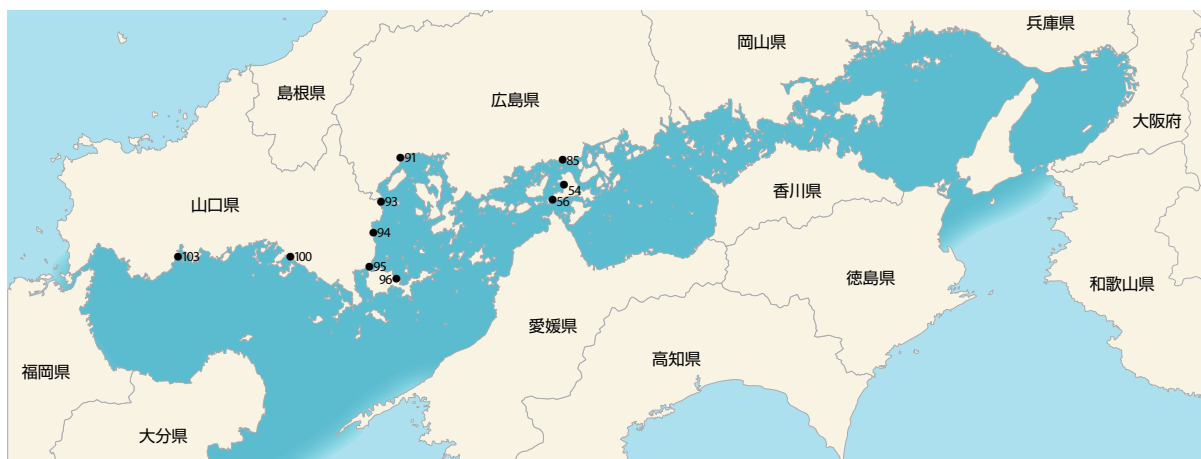
ナメソと呼ぶ地域

番号	ポイント名	番号	ポイント名	番号	ポイント名	番号	ポイント名
18	炬口漁港	37	仁尾漁港	60	笠岡市漁港	81	下津井漁港
25	下笠居漁港	43	多喜浜漁港	61	寄島町漁港	114	おおいた国見漁港
26	香西漁港	44	新居浜漁港	63	垂水漁港	123	上灘漁港
27	庵治漁港	46	河原津漁港	67	伊保漁港	124	今出漁港
34	多度津漁港	47	桜井漁港	78	大部漁港	126	北条市漁港
35	詫間漁港	48	今治漁港	79	四海漁港	129	虫明漁港
36	三崎漁港	58	因島市漁港	80	日比漁港	130	牛窓漁港



デゴンドウと呼ぶ地域

番号	ポイント名	番号	ポイント名	番号	ポイント名	番号	ポイント名
54	宮浦フェリー乗り場	91	地御前漁港	95	大畠漁港	103	阿知須漁港
56	宗方港フェリー乗り場	93	和木漁港	96	久賀漁港		
85	芸南漁港	94	通津漁港	100	下松漁港		



c 3. 他の項目の集計結果

最近の目撃状況についての設問には、235件の回答が得られ、1週間以内との回答が21件。1ヶ月以内との回答が11件。1年以内との回答が64件あった。この設問に対する回答者の平均年齢は58.9歳で、職業別内訳は漁師112、海運業2、その他釣り人16、その他28、不明77であった。回答の内訳を〔表3〕に示す。また、1週間、1ヶ月、1年以内の3期間を抜粋し、それぞれ目撃回答があったポイントを〔図1〕～〔図3〕に示す。

〔表3〕最近の目撃について（日数はいずれもヒアリング時起算）

1週間以内	1ヶ月以内	1年以内	3年以内	5年以内	10年以内	20年以内	21年以上前	知っているがみたことはない	その他	合計
21件	11件	64件	11件	11件	20件	18件	22件	27件	30件	235件
8.9%	4.7%	27.2%	4.7%	4.7%	8.5%	7.7%	9.4%	11.5%	12.8%	100%

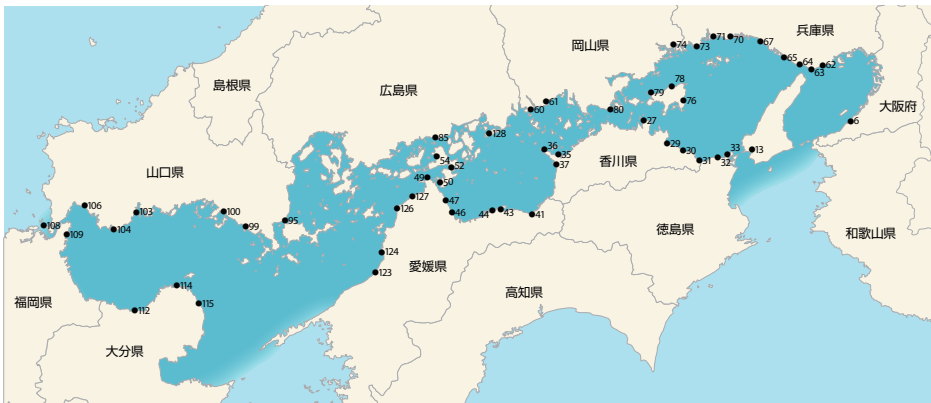
[図1] 1週間以内に見たと回答のあったポイント



[図2] 図1に1ヶ月以内に見たと回答のあったポイントを付加



[図3] 図2に1年以内に見たと回答のあったポイントを付加



目撃することの多い特定の場所があるかとの設問には、170件の回答が得られた。

内訳は、「ある」との回答が117件（68.9%）、「ない」が39件（22.9%）、「わからない」が14件（8.2%）であった。具体的な場所について117件の回答があったが、狭小範囲内の地域色の濃い地名がほとんどで、一般的な地図上では判別しにくく、範囲も広範囲にわたるため、場所の特定は今後の研究活動課題としていきたい。

この設問に対する回答者の平均年齢は60.3歳で、職業別内訳は漁師99、海運業2、その他釣り人11、その他11、不明47であった。

季節による目撃の変化についての設問には、174件の回答が得られた。

内訳は、「変化すると感じる」との回答が115件（66.1%）、「変化するとは感じない」が19件（10.9%）、「わからない」が40件（23.0%）であった。よく目撃するとされた具体的な時期について回答のあったものを四季を基準に一覧表で示す〔表4〕。

この設問に対する回答者の平均年齢は59.7歳で、職業別内訳は漁師106、海運業2、その他釣り人12、その他17、不明37であった。

〔表4〕よく目撃する時期

夏	春	春～夏	冬	夏～秋	春・秋	秋	秋～冬	冬以外	合計
36件	17件	17件	7件	4件	3件	2件	2件	1件	89件
40.4%	19.1%	19.1%	7.9%	4.5%	3.4%	2.2%	2.2%	1.1%	100%

時間や潮、天候による目撃の変化についての設問には、143件の回答が得られた。

内訳は、「変化すると感じる」との回答が63件（44.1%）、「変化するとは感じない」が16件（11.2%）、「わからない」が64件（44.8%）であった。

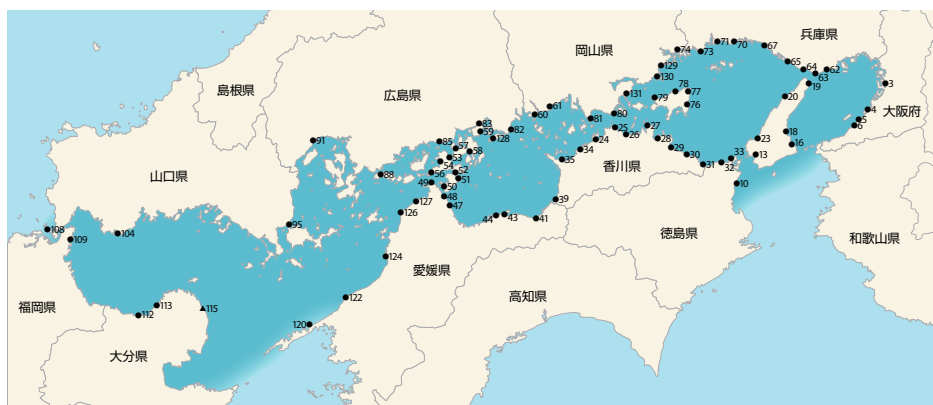
この設問に対する回答者の平均年齢は59.4歳で、職業別内訳は漁師79、海運業2、その他釣り人10、その他10、不明42であった。

以前に比べ頭数が減ったと感じるかとの設問には、214件の回答が得られた。

内訳は、「減ったと感じる」との回答が169件（79.0%）、「増減があるとは感じない」が9件（4.2%）、「増えたと感じる」が12件（5.6%）、「一時期減ったが最近増えたと感じる」が6（2.8%）、「わからない」が18件（8.4%）であった。それぞれにおいて回答のあったポイントを〔図4〕～〔図7〕に示す。

この設問に対する回答者の平均年齢は60.4歳で、職業別内訳は漁師116、海運業2、その他釣り人14、その他18、不明64であった。

〔図4〕「減ったと感じる」と回答のあったポイント



[図5] 「増減があるとは思えない」と回答のあったポイント



[図6] 「増えたと感じる」と回答のあったポイント



[図7] 「一時期減ったが最近増えたと感じる」と回答のあったポイント



これまでに一番よく見かけた時期を尋ねた設問には、120件の回答が得られた。内訳を[表5]に示し、よく見かけた時期毎に回答のあったポイントを[図8]～[図16]に示す。

回答者の平均年齢は61.7歳で、職業別内訳は漁師81、海運業2、その他釣り人9（、その他13、不明15であった。

[表5] これまでに一番よく見かけた時期（最下段は回答者の平均年齢）

ここ1, 2年	4, 5年前	10年前	20年前	30年前	40年前	50年前	60年以上前	変動無し	合計
7件	4件	9件	17件	32件	24件	17件	2件	8件	120件
5.8%	3.3%	7.5%	14.2%	26.7%	20.0%	14.2%	1.7%	6.7%	100%
51.7歳	65.0歳	64.6歳	57.3歳	62.2歳	61.2歳	70.1歳	69.5歳	55.6歳	

[図8] 「ここ1, 2年」と回答のあったポイント



[図9] 「4, 5年前」と回答のあったポイント



[図10] 「10年前」と回答のあったポイント



[図11] 「20年前」と回答のあったポイント



[図 1 2] 「30年前」と回答のあったポイント



[図 1 3] 「40年前」と回答のあったポイント



[図 1 4] 「50年前」と回答のあったポイント



[図 1 5] 「60年以上前」と回答のあったポイント



[図16] 「変動無し」と回答のあったポイント



d. 今後の活用について

今回の調査により、瀬戸内海のスナメリについて様々な情報を得ることができた。呼称分布図に限らず、ここ50年ほどの個体数の推移を漁業従事者などの証言により、数値化できたことは、大きな収穫である。

今回の調査では、瀬戸内海一円を巡り相当な数の漁村を訪れたが、すべてをまわり切れたわけでは無く、瀬戸内海に無数に存在する島嶼部の多くは残されたままだ。今後も少しずつこういった場所を巡り、年長者の生きた証言を集めていきたい。

世界でも希有な存在とされる偉大な生活の海「瀬戸内海」。この海と接してきた沿岸の人々の暮らしぶりには、人間が自然と共生していくために学ぶべきことがたくさん含まれている。スナメリを通して、より多くの人にスナメリと彼らを育む瀬戸内海について興味を持ってもらえるよう、今回入手したデータを使ってこれからも様々な活動を行ってきたい。

今回の調査活動では、牛窓前島にある啓明学院前島キャンプ、岡山理科大学理学部動物学科の清水慶子教授のゼミ室などをお借りし、困難を極めた集計作業を完了することができた。また、清水先生には、学生スタッフの勧誘や調整にも多大な協力をいただいた。この場をお借りして心より謝辞を申し上げたい。そして、いつも足下で活動を支え、時にはともに動き回る、見守る会のサポーターのみなさんにも改めてお礼を申し上げたい。

2013年6月

牛窓のスナメリを見守る会
小野塚昌博